

特定非営利活動法人 ALS/MND サポートセンターさくら会

第 20 回 定期総会議案書

(事業年度 2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日まで)

以下の議案と報告事項について、ご確認のうえ、別紙表決書をご返信ください。
ご意見ご質問等がございましたら、本部までお電話でご連絡ください。

表決書提出締切：2024 年 9 月 9 日

さくら会本部：03-3383-1337

I 審議事項

- | | | | |
|---------|---------|------|---------|
| 第 1 号議案 | 2023 年度 | 事業報告 | (活動報告書) |
| 第 2 号議案 | 2024 年度 | 事業計画 | (計画書) |
| 第 3 号議案 | 2023 年度 | 決算報告 | (活動計算書) |
| 第 4 号議案 | 2024 年度 | 事業予算 | (予算書) |

II 報告事項

- 1 監査報告書
- 2 会員数
- 3 役員名簿

第一号議案 2023（R5）年度 事業報告

1， 理事会・事務局会議・主催イベントなど

令和5年9月

- ・3日（日） 第1回理事会（電磁的決裁）
- ・18日（月） 第19回さくら会総会報告会&交流会（於：BAGUS PLACE）

令和5年11月

- ・21日（火） 第2回理事会（オンライン）

令和6年3月

- ・25日（月） 第3回理事会（オンライン）

令和6年4月

- ・13日（土） 第4回理事会（電磁的決裁）

令和6年6月

- ・22日（土） 進化する介護 2024 in 大分県（於：亀の井ホテル別府）
※主催：広域さくら会「進化する介護」実行委員会

<毎月> メルマガ『さくらんぼ便り』の配信

<毎週>進化する介護実行委員会 会議（～令和6年6月まで）

2， 研修事業 別頁をご覧ください。

3, 療養相談

- ・ 随時、療養相談を電話やメール、インターネット、訪問等で受けました。
- ・ 随時、医療的ケア研修に関する質問を研修センターで受けました。
- ・ さくら会会員事業者、広域協会、日本 ALS 協会、CIL、立命館大学生存学研究所、各地の事業所との連携により、全国各地で重度訪問介護の利用促進を支援しています。
- ・ 会員事業所へ、利用者を紹介しました。
- ・ 賛助会員へ、さくら会友の会事業者を紹介しました。
- ・ 医療的ケア児と家族への情報提供やイベント参加を通じて、子どもから大人への円滑な制度利用の促進を支援しています。
- ・ 都内・関東近県での独居支援のコーディネートを行っています。
- ・ 能登半島地震に際し、東日本大震災の経験を基にした ALS 当事者・家族・支援職向けの情報発信を行いました。

4, 学校での講義（オンライン含む）

ALS 等の難病で重度の身体障害を併せ持つ人のための介護や制度や倫理に関する講義を、大学機関等を通して行っています。次世代の支援者育成のための重要な活動です。

- ・ 立正大学、慶応義塾大学、昭和大学、東京家政大学、横浜リハビリテーション専門学校、光州大学校（於：韓国）、帝京平成大学看護学科、東京都立大学、純心大学、東京医科歯科大学、立命館大学大学院、上智大学看護学部
- 他、千葉商科大学、杏林大学、帝京平成大学、東京女子大学、東京都立大学等の見学・研修・実習の受け入れ、中高生のヒアリング、大学院生への研究協力、論文指導など

※理事：伊藤史人さんの活動は、ホームページにまとめられております。

下記「ポランの広場 | 福祉情報工学と市民活動」よりご覧ください。

<https://www.poran.net/ito/>



5, 講演・シンポジウム・交流会

- ・ 2023 年 3 月に開催した「医ケア・ALS 文化祭 - 「くらしを創る」知をつなぐ」より、ALS 文化祭の流れを汲んで、「進化する介護 2024 in 大分県」を共催しました。

「進化する介護 2024 in 大分県」

主催：広域さくら会「進化する介護」実行委員会

共催：NPO 法人広域協会、NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会、
自立支援センターおおいた、日本 ALS 協会大分県支部、大分県難病連

2024年6月22日、重度の身体機能障害のある人が自分らしい暮らし「自立生活」を実現していくための、地域での協働ネットワークづくり、当事者に関わる医療・看護・福祉支援職の多職種連携のあり方について学び合うシンポジウムを、大分県・別府市で開催いたしました。当日は全国からの当事者や医療・看護・福祉支援職の方々等、150名近い参加者が集まり、貴重なお話を聞き入る姿が見られ、学びの多い会となりました。

「進化する介護」は、20年前より、ヘルパーによる喀痰吸引等を全国に普及するため、現場と専門職を取り結ぶネットワークを構築するために、当会が開催してきたシンポジウムの名称です。しばらく休眠していましたが、全国の当事者の生きる権利のために再稼働していく所存です。その地域の多様なリソースを明らかにして、前例を作る人を応援すること、そして地域連携を可視化すること。それが新しい「進化する介護」のコンセプトです。今回の成功を受け、今後、このような会を全国で開催できればと考えています。その際には、会員の皆様のご参加もお待ちしております。

また、シンポジウムに先立って、午前中は全国の重度障害者の在宅支援に関わるコーディネーターたちが集まり、それぞれが抱える事例を報告しました。様々な課題に向き合い、問題解決の糸口を探りながら支援に取り組む話は、個々の地域で孤軍奮闘する支援者を孤立させないためにも必要であると考えます。

◆当日のプログラム◆（敬称略）

① 基調講演「大分県におけるALS患者等の療養生活支援のこれまでとこれから」

山本 真（大分協和病院）

② 九州地方における自立生活・多職種連携の事例報告

・報告者：押切 真人（自立支援センターおおいた）

山之内 俊夫（障害者自立応援センターYAH! DO みやぎき）

山口 和俊（ながさき自立生活センターこころ）

・コメンター：花岡 拓哉（独立行政法人国立病院機構・西別府病院）

③ パネルディスカッション・質疑応答

「国内外の難病障害者支援 多職種連携における課題」

・司 会：川口 有美子（NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会）

・報告者：中山 優季（公益財団法人 東京都医学総合研究所）

・指定討論者および会場参加者による質疑応答

④ 懇親会

※①～③の動画を、個人情報部分など編集して公開しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=fNM7YQjhfu8>



6, 国際交流

当会は、さくらインターナショナル (SAKURA International) として、ALS/MND 国際同盟会議 (アライアンス) を構成する正会員になっており、2023 年 12 月に開催されたスイス・バーゼルにおけるアライアンスに、理事の川口が出席しました。

また、当会会員の高野元氏と中山優季氏が、アライアンス後の日程で開催される国際シンポジウムに現地参加し、ポスター発表をおこないました。さくら会では学会報告のための研究調査の協力やアドバイスなどを行っています。

また、韓国の障害学の研究者で、立命館大学生存学研究所の客員研究者でもあるひぎょんさんと情報交換しています。韓国の重度障害者の在宅療養を支援する活動にアドバイスするために、会員の押切さんが訪韓しました。

7, 研究事業

「ロケットイン・シンドロームの人びとの経験に関する研究」

2024 年 4 月に、米国ボルティモアでハイブリッド開催された国際神経倫理学会 (International Neuroethics Society) の年次大会にオンライン参加し、立命館大学・スペインのロヴィラ・イ・ヴィルジリ大学との共同で、標題のポスター発表を行いました。会員の姫野友紀子氏による国際的な研究に、さくら会として参与してきました。

この発表は、優秀ポスター賞を受賞しています。(発表資料や詳細は下記リンクにまとめられています。)

http://sakura-kai.net/pon/neuroethics_2024/



8, 他団体との協働・協力（敬称略・五十音順）

- ・アステラス製薬株式会社
スターライトパートナー患者会助成
- ・RDD（世界希少・難治性疾患の日）
日本開催事務局
- ・医学書院
- ・一般社団法人 WITH ALS
- ・一般社団法人 日本 ALS 協会
- ・一般社団法人
日本エンド オブ ライフ ケア学会
- ・一般社団法人 わをん
- ・IKEBUKURO 難病カフェ
- ・江戸川区の介護保障を確立する会
- ・海老原宏美基金
- ・大分共和病院
- ・大分県難病連
- ・オリィ研究所：
分身ロボットカフェ DAWN ver.β
- ・介護保障を考える弁護士と障害者の会
全国ネット
- ・神奈川県庁
- ・株式会社コボリン
- ・川崎市と周辺の神経難病コミュニティ
「川崎つながる会」
- ・QOL 研究会
- ・公益財団法人俱進会
- ・公益財団法人東京都医学総合研究所
- ・厚生労働省
- ・厚生労働省医薬品審査管理課
コロナ対策委員会
- ・SEI-QoL 研究会
- ・自分をプレゼン実行委員会
- ・自立生活センターSTEP えどがわ
- ・社会福祉法人共働学舎
研究会
- ・全国推進協議会
- ・DPI 尊厳生部会
- ・日本生命倫理学会
- ・せりか基金
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- ・全国障害者介護保障協議会
- ・全国脊髄損傷者連合会
- ・全国ホームヘルパー広域自薦登録協会
（略称：全国広域協会）
- ・東京保険医協会
- ・独立行政法人国立病院機構新潟病院
- ・独立行政法人国立病院西別府病院
- ・隣町珈琲
- ・中野区医師会
- ・難病ケアハウス仁
- ・日本 ALS 協会大分県支部
- ・日本財団
- ・日本生命倫理学会
- ・日本難病看護学会
- ・日本保健医療社会学会
- ・日本弁護士連合会
- ・バイオジェンジャパン(株)
- ・本屋 B&B
- ・DPI 日本会議
- ・JIL（日本自立生活センター協議会）
- ・JIL コロナ対策委員会
- ・JPA 日本難病医療連合会
- ・NPO 法人 ICT 救助隊
- ・NPO 法人「境を越えて」
- ・NPO 法人自立支援センターおおいた
- ・NPO 法人せきずい基金
- ・NPO 法人 YAH! DO みやざき
- ・ながさき自立生活センターこころ
- ・立命館大学生存学研究所
- ・立命館大学大学院「LIS とロボット」
- ・JDA（一般社団法人障害者の差別の禁止・
解消を推進する全国ネットワーク）
- ・矢来町薬局

9, 学会参加・協力

理事や会員が発表、質疑応答等を行ったもの

- ・一般社団法人 日本理学療法学会連合
- ・日本在宅救急医学会
- ・千葉県理学療法士学会
- ・難病フォーラム
- ・日本家族看護学会
- ・日本生命倫理学会
(エンドオブライフ研究会)
- ・日本産業ストレス学会
- ・日本難病医療ネットワーク学会
- ・日本難病看護学会 (学術集会)
- ・International Alliance for ALS/MND
- ・International Symposium on ALS/MND
- ・全国在宅医療連合学会
- ・障害学会
- ・リハビリテーション連携科学会
- ・日本保健医療社会学会
- ・立命館大学大学院
「LIS とロボット」研究会

10, マスコミ取材・寄稿・執筆・TV 出演

- ・朝日新聞、毎日新聞、京都新聞、NHK、YomiDr. (ヨミドクター) 月刊誌、専門誌など

当会宛てに来た取材依頼については、理事間で対応者を調整、また、より適切な当事者につなぐなどの対応を行いました。

11, その他

- ・京都 ALS 患者囑託殺人事件の判決を受けて、声明を公表しました。(下記参照)

<http://sakura-kai.net/pon/als-20231219/>

・立岩先生追悼集会「生きて在るを学ぶ」の開催費用のカンパを集めました。カンパで集まった金額はさくら会の事業収益には入れていません。またカンパの残金は映画作成費用に回していますが、それも収益には入れていません。

・映画完成「杳かなる（はるかなる）」試写会に参加、完成上映会への協力

昨年度、ラグビークラウドファンディングから制作費用を提供した宍戸監督による映画「杳かなる（はるかなる）」が完成し、6/10に完成上映会が開催されました（主催：映画「杳かなる」（はるかなる）上映委員会）。

今後順次、全国各地の映画館にて興行上映が、また、撮影関係者の各地元にて完成上映会などが行われます。

・少人数制の制度勉強会を試験的にはじめました

各当事者団体のマネジメントや現場のコーディネート、事務、研修などを担当する若手を中心に、重度訪問介護や第三号研修に関連する制度や歴史について、整理して勉強会を行いたいという声があがり、6/18にテストケースとして第一回勉強会を開催しました。

第一回は、重度訪問介護従業者養成研修と第三号研修（統合課程含む）の仕組みと制度、都道府県により異なる運用などに焦点をあて、事前に資料を共有し、当日は参加者の疑問や質問に、実例や具体例を経験した参加者が答えていく、というQ&A形式で行いました。

9月上旬に第二回も開催、今後のテーマや形式については、検討中ですが、人のつながりで参加者を募りながら、細く長く継続していく予定です。お問合せは、安達・川口まで。

※2024年8月、第一三共「思いをつなぐ」次世代応援プログラム第1期助成の助成金事業に採択されました。

【プログラム名：「今更聞けない制度の話 勉強会」 助成金額：¥883,436】

今後の当事者団体を担う若手が、これまで制度設計や交渉を行ってきたベテランに直接学び、意見交換を行うことで、各団体の円滑な世代交代・知識や経験の継承につなげ、今後の業界の運動やその実務を担う人材を育成することを主たる目的にしています。

また、報告書を作成し、さらに下の世代にも同様の研修を行う際の研修資料とすることを計画中です。

【研修事業】

・ 第三号研修

基本研修の講義8時間について、オンデマンドによる代替が標準運用として認められました（通知：令和6年3月26日付「喀痰吸引等研修における通信・遠隔研修の取扱いについて」）。これにより東京都保健福祉財団の研修もオンデマンド型へ移行し、規模を拡大（120名）しております。当会への影響を危惧しましたが、現在のところ目立った変化はありません。

近年、外国籍の方による受講が増加しています。手技やコミュニケーションには問題がなく、むしろ優れている場合もありますが、「読み書き」の問題で筆記試験をクリアできないことがしばしばあります。

当会としては、医療的ケアの担い手を一人でも多く輩出したいという思いがありますが、日々の記録や緊急時対応への懸念が残るため、一般受講生同様、補講や再試験を経ても一定レベルに達しない場合は、残念ですが不合格（不適）としております。とはいえ、常に人手不足の業界であり、外国人の受講は今後も増加すると予想されますので、これからどのように対応していくべきか、課題として考えていきたいと思っております。

* 基本研修開催実績

50回（2023年4月～2024年3月迄 臨時開催を含む）

* すべてオンデマンド型

例年どおり、演習・筆記試験として、月に4回程度の来所日を設定し、中止は一度もありませんでした。

受講者数詳細は、東京都へ提出した別紙「喀痰吸引等研修実施結果報告書」をご覧ください。

※2024年5月1日

コロナ前に製作した、オンデマンド教材の第一章の動画（重度障害児・者等の地域生活等に関する講義／講師 安達佳奈）を更新しました。たんの吸引の法制度関係、その周辺情報について最新を反映しています。

* テキスト販売（2024.5月、1,500冊増刷）

ALS協会（鹿児島県支部、神奈川県支部、長野県支部）、ライフサポートひかり、(株)アース、NPO かごしまサポートセンター等、地方登録研修機関の皆様にテキストをご購入頂きました。

なお近年、物価が上昇し続けております。2023年1月にテキストの価格改定（値上げ）を行ったところですが、この勢いが続けば次の増刷時には再度の値上げを検討しなければなりません。不本意ではございますが、何卒、ご理解を頂きたいと思っております。

* 新たに研修講師（看護師）1名にご協力を頂けることになりました。

・池田尚美さん

お母さまがALS患者。お父さまは介護事業所を運営されてきました。ご兄妹そろって看護師となり、さくら会の講師を引き受けていただきました。尚美さんは普段勤務されているのが呼吸器内科なので、ご専門です。医療の立場だけでなく、患者家族としての経験や想いがあり、堂々として大変頼もしい看護師さんです。

・重度訪問介護養成研修（A 会員のみ）

講師に変更なく、月2回（4月のみ1回）のオンラインによるスクーリングを、当事者講師の岩岡美咲先生、登り口倫子先生、及び事務局の安達の3名で分担しています。

昨年度は、受講生全員がきちんと研修を修了しました（後述の開催実績参照）。

※2024年5月お申込み分より、通信研修テキスト別冊「支援制度について」の改訂版を送付しています。

平成30年度の改正以来、2度の定期的な制度改正があったため、令和6年度より施行される制度改正を盛り込み、参考資料は2010年度以降のものに差し替えて、2024年4月版を執筆しました。

***2024年4月以降も、オンライン/オンデマンドによる研修が継続可能になりました。**

2023年5月、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に分類されたことに伴い、コロナ特例措置として始まったオンライン/オンデマンド形式による研修ですが、2023年に各当事者/関係団体へのヒヤリングが行われた結果、今後も継続してよいことが決定しました。

令和6年3月28日付 厚生労働省「(事務連絡) 居宅介護職員初任者研修等の演習実施の取扱いについて」が根拠文となります。

重度訪問介護従事者養成研修の通信/通学過程における講義部分のほか、初任者研修等（重訪研修も含まれます）の演習についても、オンライン/オンデマンドによる実施が可能になりました。

これにより、これまで重度訪問介護のみを利用していた利用者が、介護保険を利用することになった場合（かつ、介助者が重訪の資格しか持っていなかった場合）でも、初任者研修の全過程をオンラインなどで受講して、資格を得、サービス提供することも可能になりました。地域間格差を是正する一歩として、この決定を歓迎しています。

スクーリング開催実績(オンライン) **20**回（2023年4月～2024年3月迄）

注)A 会員のみ

スクーリング受講者 31 / 修了証発行枚数 31

・現任者研修（A 会員のみ） 前年度、本年度については、開催していません。

《第三号研修・重度訪問介護養成研修基礎課程・追加課程 開催実績》

2023 4月	・重訪スク（23日） ・第三号（9日，13日，20日，25日）	10月	・重訪（8日，17日） ・第三号（5日，15日，19日，24日）
5月	・重訪スク（18日） ・第三号（11日，21日，25日，30日） ※コロナ5類へ、定員6→8名に拡大	11月	・重訪スク（12日，23日） ・第三号（2日，7日，16日，26日，30日）
6月	・重訪スク（20日） ・第三号（8日，18日，22日，27日）	12月	・重訪スク（10日，19日） ・第三号（7日，12日，17日，21日）
7月	・重訪スク（9日，20日） ・第三号（6日，11日，23日，27日）	2024 1月	・重訪スク（14日） ・第三号（11日，21日，25日，30日）
8月	・重訪スク（13日，22日） ・第三号（3日，6日，15日，24日，31日） ※8/3 臨時開催	2月	・重訪スク（11日，20日） ・第三号（6日，15日，25日，29日）
9月	・重訪スク（10日，21日） ・第三号（7日，12日，17日，28日）	3月	・重訪スク（10日，21日） ・第三号 （5日，14日，24日，28日）
		4月	・重訪スクーリング（21日） ※重訪テキスト別冊改訂 ・第三号（9日，14日，18日，25日）
		5月	・重訪スクーリング（12日） ・第三号（9日，14日，19日，30日） ※ オンデマンド第一章動画 改訂 ※第三号テキスト 1,500部増刷
		6月	・重訪スクーリング（9日，18日） ・第三号（6日，16日，20日，25日）

※当法人の会期 7月~6月

令和6年4月24日

東京都知事 殿

主たる事業所の

所在地 東京都中野区中央3-39-3

申請者 NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会

代表者名 理事長 酒井ひとみ



喀痰吸引等研修 実施結果報告書

社会福祉士及び介護福祉士法附則第6条に定める喀痰吸引等研修について、下記の通り実施したので、省令附則第11条第2項第6号の規定に基づき報告します。

登録研修機関登録番号	1	3	2	0	0	0	0	0	1
申請者	フリガナ	エヌピーオーホウジンエイエルエスエムエヌディサポートセンターサクラカイ							
	事業所名称	NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会							
	事業所所在地	(郵便番号 164 - 0011) 東京都中野区中央3-39-3							
		(ビルの名称等)							
電話番号	03-3383-1337								
研修課程	1. 喀痰吸引及び経管栄養のすべて：省令別表第一研修（不特定の者対象） 2. 喀痰吸引等行為のうち1行為以上4行為以下：省令別表第二号研修（不特定多数の者対象） 3. 各喀痰吸引等行為の個別研修：省令別表第三研修（特定の者対象）								
研修内容	基本研修 (講義)	実施場所	さくら会研修センター						
		実施期間	令和4年 10月 17日 ~ 令和6年 3月31日						
		受講者数	328人	修了者数	324人				
		試験実施日	令和5年 4月 9日 ~ 令和6年 3月31日						
	基本研修 (演習)	実施場所	さくら会研修センター						
		実施期間	令和5年 4月 9日 ~ 令和6年 3月31日						
		受講者数	328人	修了者数	328人				
		評価実施日	令和5年 4月 9日 ~ 令和6年 3月31日						
	実地研修	実施場所	各対象居宅						
		実施期間	令和4年 9月 30日 ~ 令和6年 3月31日						
		受講者数	1,931人 (座学受講修了者+実地のみ申込人数)	修了者数	1,579人 (修了者名簿の人数)				
		評価実施日	令和4年 9月 30日 ~ 令和6年 3月31日						
研修担当者の 氏名及び連絡先	氏名	大曾根・三神							
	電話番号	03-5937-1370							

※特定の者研修においては、実地研修を在宅で行った場合については、実施場所に各対象居宅と記載すること

添付資料

研修修了者一覧

※ 喀痰吸引等研修 研修修了者管理簿の写しでも可

第二号議案 2024（R6）年度 事業計画

- ① 全国各地の ALS 等在宅療養のコーディネーター、ALS 協会、CIL、病院等に呼びかけて、「進化する介護」を開催します。次回開催地は未定。
- ② 重度訪問介護従業者養成研修、第三号研修を毎月継続して開催します。また遠隔地からの受講体制の拡充をはかります。
- ③ 第三号研修の在り方について、学会発表を予定しています。(法制化当初の理念の衰退がみられる)
- ④ 感染拡大状況等に配慮しながら、講演会、研究会、懇親会等に参加し、また開催するなどして専門家や支援団体との交流を深め、ピアサポート活動につなげていきます。
- ⑤ 重度訪問介護の利用について、電話やメール等で必要情報の提供等を行います。また市町村との交渉の現場に出向くなどして当事者の地域生活を支援します。あわせて、市町村での誤った運用事例について、メディアを通して報道するなどして、厚労省や国会議員等の政策立案者への働きかけも行っていきます。
- ⑥ コロナ対策、重度訪問介護等の運用に関する最新情報の提供をおこなっていきます。
- ⑦ 基礎疾患を持つ人の権利擁護に関わる言論活動を積極的に行います。偏った ACP や AD の議論、安楽死（尊厳死）法制化などには、「意思を伝えられずにいる側」の人権擁護をしていきます。必要に応じて他団体と連携し、院内集会などを企画します。
- ⑧ 学会や大学等での講演、執筆活動を行います。
- ⑨ ALS/MND 国際同盟会議への参加を呼びかけます。国境を越えて ALS/MND の命を守る連帯を呼びかけます。
- ⑩ さくら会および各団体の支援。活動の軌跡をまとめて記録する仕事に着手していきます。
- ⑪ メールマガジン「さくらんぼ便り」を毎月発行します。
- ⑫ 穴戸大裕監督による映画「杳かなる（はるかなる）」の興行上映実行委員会に参加しています。
- ⑬ 定期的に少人数制の制度勉強会を企画、開催します。

NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会

令和4年と5年度 活動計算書比較

科 目	令和4年	令和5年	増減
I 経常収益			
1 受取会費			
会員受取会費	5,085,407	4,908,383	(177,024)
2 受取寄附金			0
受取寄附金	187,000	325,000	138,000
3 受取助成金等			0
一般助成金	0	0	0
4 事業収益			0
研修事業収益	10,151,586	10,290,659	139,073
5 その他収益			0
受取利息			0
その他収入	148,287	52,763	(95,524)
経常収益計	15,572,280	15,377,805	(194,475)
II 経常費用			0
1 事業費			0
(1)人件費			0
謝金	2,679,461	884,256	(1,795,205)
人件費計	2,679,461	884,256	(1,795,205)
(2)その他経費			0
会議費	22,180		(22,180)
委託費	606,020		(606,020)
旅費交通費	57,782		(57,782)
通信費/消耗品	13,406		(13,406)
印刷製本費	937,970	1,465,970	528,000
通信費			0
会場使用料	958,055	724,770	(233,285)
(2)映画製作費	1,500,000		(1,500,000)
雑費	4,125		(4,125)
その他経費計	4,099,538	2,190,740	(1,908,798)
事業費計	6,778,999	3,074,996	(3,704,003)
2 管理費			0
(1)人件費			0
給料手当	3,761,000	324,000	(3,437,000)
法定福利費	0		0
人件費計	3,761,000	324,000	(3,437,000)

(2)その他経費			0
旅費交通費	462,679	427,690	(34,989)
通信費	715,398	759,322	43,924
交際費	508,832	56,827	(452,005)
減価償却費	151,867	67,501	(84,366)
賃借料	533,904	623,004	89,100
保険料	22,230	22,230	0
水道光熱費	242,971	202,234	(40,737)
賛助団体会費・寄付	0	199,000	199,000
消耗品費	1,605,218	632,781	(972,437)
支払手数料	1,186,489	4,827,695	3,641,206
地代・家賃	120,000	120,000	0
会議費		38,500	38,500
事務費	165,000	165,000	0
図書費	0	12,520	12,520
広告宣伝費	156,750	0	(156,750)
雑費	93,553	94,829	1,276
その他経費計	5,964,891	8,050,133	2,085,242
管理費計	9,725,891	8,374,133	(1,351,758)
経常費用計	16,504,890	11,449,129	(5,055,761)
当期経常増減額	-932,610	3,928,676	4,861,286
Ⅲ 経常外収益	0	0	0

その他の事業を実施していません。

- ・会費収入が若干減りました。年間を通して入退会がありますが、増減はほとんどありません。
- ・「人件費」の「謝金」は今年度、研修講師への謝礼金のみとなり、スタッフの給与は費目が変わって、「その他経費」の支払手数料に入っています。
- ・本年度の基幹事業は昨年度とほぼ変わりなく執行しました。管理費等が抑えられたため、400万円近い黒字です。

第四号議案 2024 (R6) 年度 事業予算(前年度との比較)

科 目	R5年度	R6年度
I 経常収益		
1 受取会費 会員受取会費	5,500,000	5,500,000
2 受取寄附金 受取寄附金	100,000	100,000
3 受取助成金等 一般助成金	10,000	500,000
4 事業収益 研修事業収益	10,000,000	10,000,000
5 その他収益 受取利息 その他収入	50 100,000	100,000
経常収益計	15,710,050	16,200,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
謝金	2,500,000	2,500,000
人件費計	2,500,000	2,500,000
(2) その他経費		
委託費	600,000	600,000
旅費交通費	50,000	1,000,000
通信費	50,000	500,000
印刷製本費	1,000,000	1,000,000
会場使用料	1,000,000	1,000,000
(2) 映面上映関連費		500,000
雑費		300,000
その他経費計	2,700,000	4,900,000
事業費計	5,200,000	7,400,000
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	5,000,000	1,200,000
法定福利費	36,000	36,000
人件費計	5,036,000	1,236,000
(2) その他経費		
旅費交通費	500,000	1,000,000
通信費	1,000,000	1,000,000
交際費	500,000	100,000
減価償却費	300,000	80,000
賃借料	120,000	120,000

保険料	50,000	50,000
水道光熱費	240,000	240,000
研修費	30,000	30,000
消耗品費	500,000	500,000
租税公課	1,000	1,000
支払手数料	1,000,000	5,000,000
諸会費	100,000	100,000
地代・家賃	120,000	120,000
会議費	120,000	300,000
事務費	165,000	165,000
寄附金/協賛金	50,000	300,000
修繕費	50,000	50,000
広告宣伝費	150,000	150,000
雑費	15,000	100,000
その他経費計	5,011,000	7,106,000
管理費計	10,047,000	8,342,000
経常費用計	15,247,000	15,742,000
当期経常増減額	463,050	458,000

- ・今年度も「進化する介護」を開催予定です。開催地は未定。今年中に決定します。
- ・「旅費交通費」には、映画会実行委員としての旅費経費を含みます。
- ・国際会議出席および支援は経費に含まず、委員の自弁で賄います。
- ・予算に未計上ですが、研修センターのリノベーション等を行う可能性があります。
(実施は来年度以降に)

監査報告書

NPO法人 ALS/MNDサポートセンターさくら会
理事長 酒井ひとみ 殿

令和5年度(令和5年7月1日から令和6年6月30日迄)の事業報告、
貸借対照表、活動計算書、財産目録及び会計関係明細書を監査した
結果、適法に処理、記載されていると認める。

以上

令和6年8月15日
瀬高税理士事務所

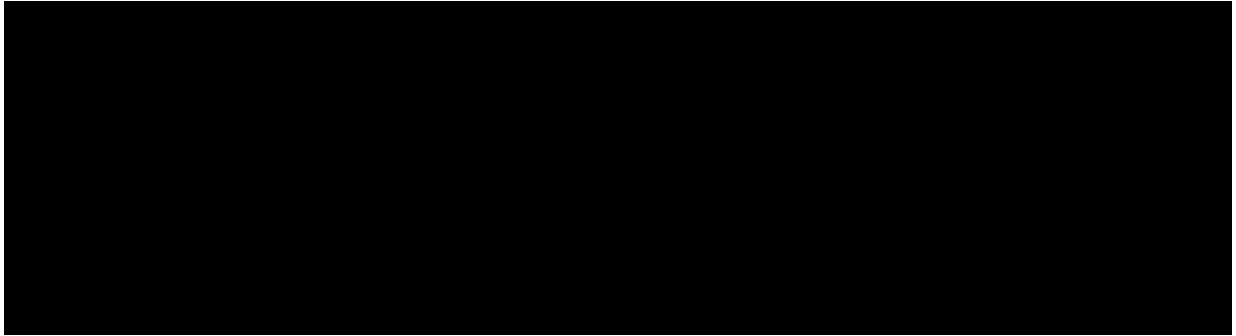
監事 瀬高 忠行



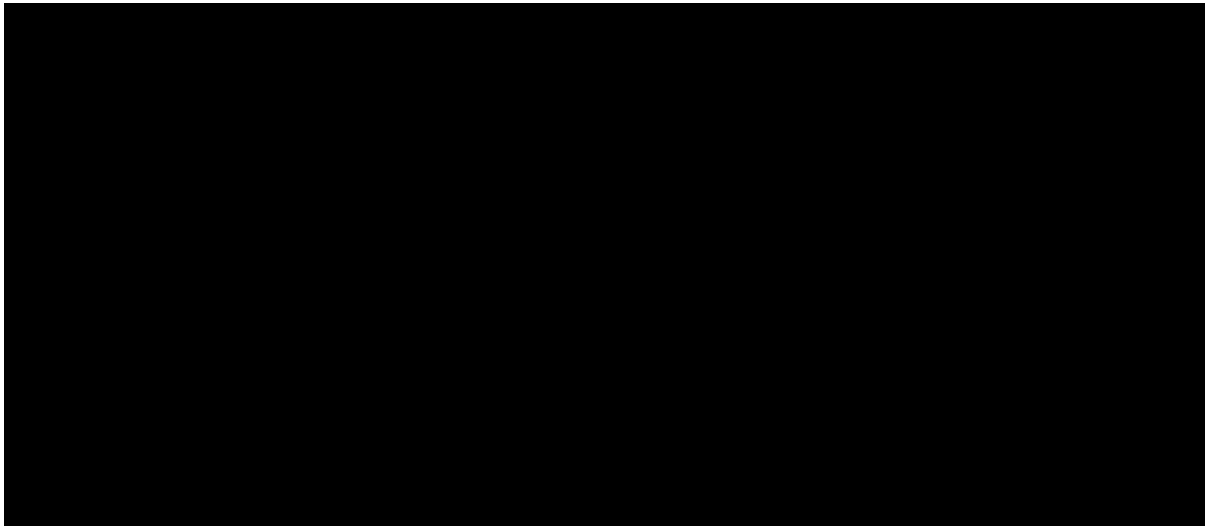
全会員に配布する報告書には、「会員数のみ」を記載します。お取り扱いにご注意ください。

R5 年度会員 記録 (2024.6 月末日現在)

A 会員 13 社



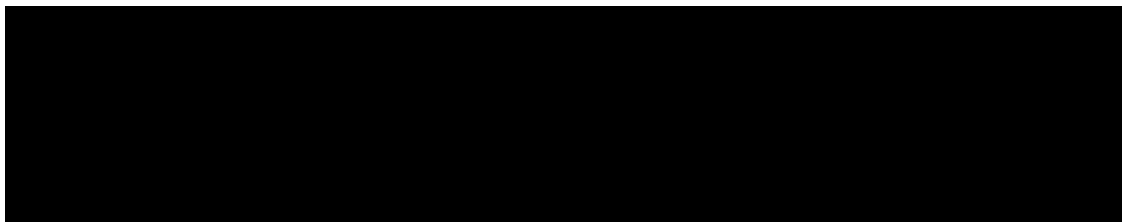
B 会員 14 社



賛助会員 116 名

- ・新規 13 名
- ・更新 96 名 (理事を除く。また同一住所、複数回の納入を整理したもの)

◆ ご寄付 (会費とは別、又は 2 口以上) 頂いた方 計 325,000 円



2024（令和6）年度 役員一覧

理事長 酒井 ひとみ

副理事長 川口（島田）有美子
小河原 恵

理事 岡部 宏生
杉本 孝子
川口 美怜
小長谷 百絵
伊藤 史人
塩田（田中）祥子
増田 潤

監事 瀬高 宏行